

医療クオリティマネジメント学

Department of Patient safety and Quality Management

1. 教育目標

医療の質・安全に対する我が国の法令や海外の知見を理解したうえで、さらなる患者安全の確保を向上させるための方策を立案し、国内外にその効果を発信することを目標とする。複雑な医療の流れを理解し、「複雑な中にもあってうまくいっている」理由を解析し、エラーにのみ注目されがちな当分野の考え方に革新をもたらせるような研究をめざす。

2. 到達目標

1. 医療の質・安全に関して、国内外の知見や法令を習得し説明できる
2. 患者安全の確保を強化するための問題点を抽出し対策立案ができる
3. 医療の質・安全の確保と医療倫理や医療経済との関連を概説できる
4. 医療者への効果的な医療の質・安全教育の開発構想を説明できる
5. エラーを生じるメカニズムを概説し、その抑止策を提案できる
6. 多職種協働や患者参画の具体的なコミュニケーション教育の方策を立案できる
7. 自身が取り組む研究を的確に発表できる
8. 自身の研究内容を論理的な学術論文としてまとめることができる

3. 成績評価の方法と基準

（共通）成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び修得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

課題におけるレポート提出（10%）

研究成果の関連学会での発表（20%）

研究成果の学術論文への掲載発表（50%）

院内カンファレンスでの発表（20%）

4. 教科書・参考書

医療概論 第4版（医学書院）

その他、必要に応じて参考資料を指定する

5. 準備学習

予習としては、指定参考書の「医療安全」の部分を必ず熟読し、関連文献を検索し、知識を整理して授業・実習に臨むこと。（1時間以上）

復習としては、日々の学習の場面で経験したことで、最も改善を要する内容を抽出し、その対策案を書面にまとめ次回のカンファレンスで提案すること。（1時間程度）

6. フィードバック方法

当該年度修了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

(第1学年・昼間開講)

【医療クオリティマネジメント学】

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実習	患者・医療者への効果的な医療安全教育を着想発表	高橋准教授 江口臨床講師	火曜/3, 4限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
実習	患者安全の確保を医療経済・医療倫理の観点から防止策を立案する	江口臨床講師	水曜/1, 2限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
演習	院内で生じているインシデントの分析と抑止策の立案	江口臨床講師	木曜/4限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
講義	国内外の医療の質・安全に関する法令学習と比較	江口臨床講師	金曜/1限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室

(第1学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実習	患者安全の確保を医療経済・医療倫理の観点から防止策を立案する	江口臨床講師	月曜/6, 7限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
講義	国内外の医療の質・安全に関する法令学習と比較	高橋准教授	火曜/6限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
演習	院内で生じているインシデントの分析と抑止策の立案	江口臨床講師	火曜/7限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
実習	患者・医療者への効果的な医療安全教育を着想発表	江口臨床講師	水曜/6, 7限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室

(第2学年・昼間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実習	我が国で発した医療事故に対する調査方法を学ぶ	江口臨床講師	火曜/3, 4限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
実習	上記医療事故調査の報告書を作成する	高橋准教授	木曜/3, 4限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
演習	研究に関連する海外論文概説	江口臨床講師	金曜/2限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室

(第2学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究に関連する海外論文概説	高橋准教授	月曜/6限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
実習	我が国で発した医療事故に対する調査方法を学ぶ	江口臨床講師	木曜/6, 7限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室
実習	上記医療事故調査の報告書を作成する	江口臨床講師	金曜/6, 7限	通年	4	医療クオリティマネジメント学教室